

プロジェクト課題No.1

生食用ぶどうの ブランド化による生産拡大

対象者：南三陸大粒ぶどう協議会(会員9人)

計画期間：令和6年度～令和7年度

チーム員：◎木村、村主、菊池、大野、降幡



1 課題の背景(対象の概要)

- ・南三陸町では生食用ぶどうの作付が拡大している。
- ・中山間地でも栽培しやすく、高収益であり、新植する生産者が増加している。



パイプハウスでの栽培



雨よけ栽培



1 課題の背景(対象の概要)

【南三陸大粒ぶどう協議会】

- ・令和5年11月に9名で設立。R8.1現在 会員:14名
- ・栽培面積:約100a、栽植本数約180本
- ・統一の基準に基づく高品質な大粒系ぶどうの生産販売及びブランド化による生産拡大・認知度向上を目指している。
- ・環境負荷低減の取組(化学肥料・農薬の使用低減、町内資源を活用した施肥、土づくり等)の実施による差別化、付加価値向上を目指している。

1 課題の背景(ねらい)

- 栽培歴の浅い生産者が多く、会員間の技術平準化に向けた支援が必要。環境負荷低減の取組の導入に向けても、併せて支援が必要。
- 現在は地域直売所への出荷や庭先販売がほとんどだが、今後の生産量増加を見据え、南三陸町産ぶどうの評価向上等による販売力強化が必要。



栽培技術向上、付加価値創出による生食用ぶどう生産を支援し、ぶどうの生産量・販売量の増加により、新たな産地形成を図る。

2 今年度の目標

- (1) 栽培指導による会員間の技術平準化および販売力強化が図られる
- (2) 環境負荷低減の取組や省力化技術の導入が行われる

■数値目標

ブランド「しおかぜ葡萄」の出荷量

【R5】 0kg → 【R6】 240kg → 【R7】 300kg

実績: 867kg

3 活動内容

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

① 巡回指導・栽培研修会の開催

- ・巡回指導及び新たに栽培を始めた生産者の重点的な指導。
- ・栽培において重要な、花穂整形・摘粒・剪定作業の栽培技術研修会実施

② 環境負荷低減・省力化技術支援

- ・牡蠣殻、ホタテ殻使用による土づくり支援
- ・無煙炭化器、電動剪定鋏による環境負荷低減及び省力化技術導入支援

(2) 販売力強化・PR支援

① 販売会開催に向けた支援

- ・南三陸さんさん商店街での販売会開催に向けた支援

② 関係機関と連携したPR支援

3 活動内容

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

●巡回指導・栽培研修会の開催

・ジベレリン処理、花穂整形、摘粒、副梢管理、病虫害防除等の高品質果実生産に重要な技術の習得・実施を支援。大きな問題が発生せず収穫期を迎えた。

・栽培研修会は5月、7月、**12月**の3回開催。

5月26日 花穂整形技術研修会

7月 1日 摘粒技術研修会

12月22日 せん定研修会

会員の9割が参加し活発な意見交換が行われた。



3 活動内容

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

● 有色袋及び傘掛けによる品質向上技術導入

シャインマスカットの果皮黄化、かすり症の軽減のため、有色果実袋利用や傘かけ利用の効果と使用方法を指導した。

想定した被害軽減に加え、今年度の高温乾燥による被害軽減につながった。



3 活動内容

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

●栽培要領に基づいた土づくり支援

栽培要領の改正(R7.2)

・町の資源の活用について

改正前：貝殻等による土づくり、南三陸BIOで製造される液肥うち

1つ以上取り組む

改正後：牡蠣殻、ホタテ殻等の施用による

土づくりを行う

- ・R7年度は協議会員の希望者に、牡蠣殻を配布した。希望しない協議会員は独自にホタテ殻を確保して散布が行われ、環境に配慮した土づくりが行われた。



「地域内で循環型農業を」

に効果があるという。提供した後藤さんは「環境に良い取り組みに共感している。海の資源が農作物の栄養になればいい」と期待を寄せる。

しおかぜ葡萄は昨年デビューし、生産者がシャインマスカットなど20種類以上、計807kgを出荷した。町内の菓子店がブドウを使ったスイーツを開発し、裾野を広げている。

今季は8月末から出荷予定で昨季を上回る収穫を見込む。協議会長の阿部博之さん(67)は「高い品質でおいしいブドウを出荷し、知名度アップを目指したい」と話す。

農業を進めたい」と感謝する。

カキ殻に含まれるカルシウムは果樹の成長に必要な栄養素の一つで、土壌改良

生産者をつくる南三陸 受け取った。今後、生産者大粒ぶどう協議会の大沼は、13人がカキ殻を砕いて粉状のかさん(26)ら4人は3日に、農地にまく。

日、同町戸倉の漁師後藤博 大沼さんは「かさん頂弥さんが保管していた けてありがたい。土づくりカキ殻約10kgを無償で には町内の生ごみを再利

用した液肥も使う。地域の資源を生かした循環型

カキ殻を語る大沼さん(右)と後藤さん(左)南三陸町戸倉の資料置き場

南三陸 漁師が生産者に無償提供

しおかぜ葡萄にカキ殻栄養

南三陸町で生産された大粒ブドウ「しおかぜ葡萄」のブランドを展開する農家が、カキ殻を活用した土づくりに挑戦している。環境に配慮した栽培手法をラビールし、町産ブドウの認知度向上を目指す。

3 活動内容

(1) 技術力向上及び環境負荷低減、省力化技術の導入支援

●反省会開催(11月29日)

ブランド化、栽培管理、販売状況などについての振り返りを実施

- ・ジベレリン処理のタイミング、適切な房管理が難しかった
- ・高温による赤系統品種の着色不良
- ・基本に忠実にやったので、着色不良等なかった

→よいものを作るには適切な房数・粒数等基本的な栽培管理の励行が大事と再認識

●収穫販売実績調査(11月～12月)

ぶどう収穫量及び「**しおかぜ葡萄**」の販売量を聞き取り調査



3 活動内容

(2) 販売力強化・PR支援

●目揃え会 9/2、販売会打合せ 9/17

・出荷基準の確認・見直し

(しおかぜ葡萄の出荷基準)

(1) 房重量が赤・黒系統品種で概ね300g以上、
黄緑色系品種で概ね400g以上で房型が良好なもの

(2) 1粒重が赤・黒系品種で概ね12g以上、黄緑色系品種で15g以上で
粒型が良好なもの



しおかぜ葡萄のパック売り(粒ぶどう)の出荷基準を定めた

・販売規格・販売価格の統一

・長期保存技術(フレッシュホルダー)の情報提供

3 活動内容

(2) 販売力強化・PR支援

●しおかぜ葡萄販売会

- ・日時 令和7年9月21日(日)
- ・場所 南三陸さんさん商店街
- ・出品 1000点 販売額 646,000円



●気仙沼合庁販売会

- ・令和7年10月17日(金) 販売額 93,000円



3 活動内容

(2) 販売力強化・PR支援

●南三陸スイーツ協会との連携

- ・南三陸町の果樹農家とスイーツ提供製造事業者が連携し、令和7年3月12日に設立。

- ・南三陸スイーツ協会と連携し、スイーツピクニック(9/13から9/28)で、しおかぜ葡萄を活用したスイーツが商品化され、販路拡大につながった。

生産者6人 提供先店舗 14店舗

出荷量 141.7kg 売上約42万円



3 活動内容

(2) 販売力強化・PR支援

● 長期保存の検討

- ・収穫後の穂軸に給水容器(フレッシュホルダー)を装着し、検討
- ・9月18日に収穫したぶどうの軸にフレッシュホルダーを取り付け、冷風が当たらないように冷蔵庫に保管
- ・9月26日、11月7日、11月26日に、一粒重、糖度を測定

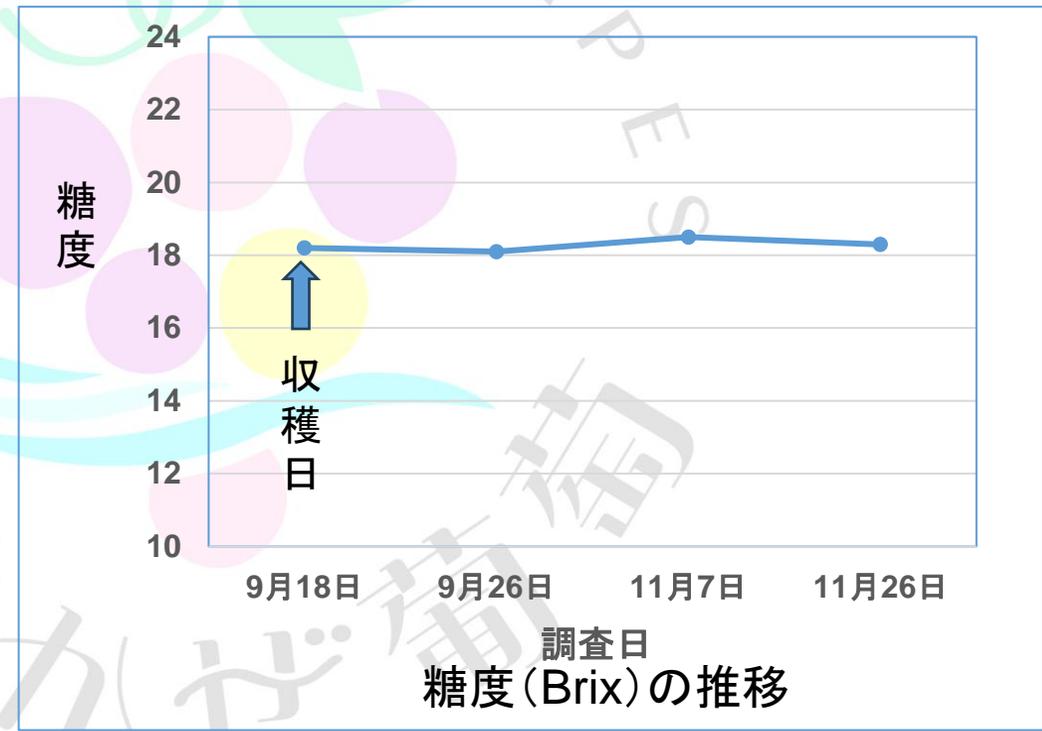
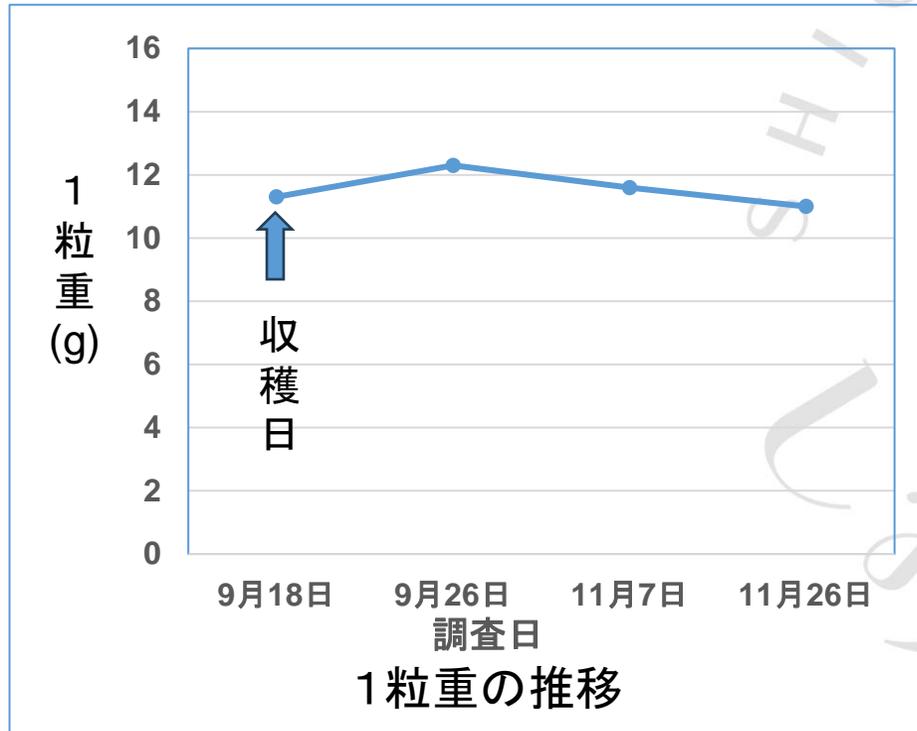


11月7日の状態

3 活動内容

(2) 販売力強化・PR支援

●長期保存の検討(フレッシュホルダー試験)



- ・フレッシュホルダーの使用で、約2ヶ月弱軸が緑色に維持され、糖度も下がらなかった
- ・食感は、収穫時に比べると柔らかくなった

4 目標達成状況

(1) 栽培指導による会員間の技術平準化および販売力強化が図られる

- ・研修会等により会員の技術向上が図られ、協議会全体のぶどう生産量は、3,136kgと前年を上回ることができた。
- ・9月に開催された販売会は、昨年の売上を上回ることができた。
- ・フレッシュホルダーを使用することで、長期保存・販売の可能性が示された。

(2) 環境負荷低減の取組や省力化技術の導入が行われる

- ・全会員による牡蠣殻・ホタテ殻等施用の土づくりが実践された

■ 数値目標

ブランド「しおかせ葡萄」の出荷量

【R5】 0kg → 【R6】 240kg → 【R7】 300kg
実績：867kg 実績：690kg

5 今後の対応

- R7年度は「グリーンな栽培体系加速化事業」を活用し、無煙炭化器と電動せん定はさみを購入



せん定枝のバイオ炭実演会及び電動せん定はさみによる軽労化の効果実証を行う予定



令和7年度グリーンな栽培体系加速化事業
電動せん定はさみの省力化検証

生産者名

品目名	品種名	作業名	作業年 (R年)	作業日	作業面積 (a)	作業本数 (本)	作業時間 (分)	作業人数	記録の根拠	作業負担の度合 (従前を10とした場合、導入後の負担度合を10段階で表現) ※2
ぶどう		せん定	導入前 (R7)						作業日誌 その他 ()	
			R8						作業日誌 その他 ()	

5 今後の対応

●生産量の増加

- 収量向上による「しおかぜ葡萄」生産量の増加
- PR等による新たな生産者の掘り起こし

●環境負荷低減の取組及び作業の軽労化

- 農林水産省が行っている「みえるらべる」の取得等の付加価値向上、消費者へのPR
- ジベレリン処理、摘粒、せん定等の作業軽労化の取組支援



み
え
る
ら
べ
る

見る

選べる



6 対象者からの意見

令和5年の協議会発足以来、支援いただき、大変ありがとうございます。

一人一人は小さいが、みんなで取り組むことによって、意識が高まり、より良いものを目指そうと良い関係ができ、それが大きな動きになり、よいぶどうを作ることができています。

今後も、とくにかく、よいぶどうを作ること心掛けていきたいです。

引き続き支援をお願いします。

(南三陸大粒ぶどう協議会長)